

2019 SUPER GT AUTO SPORT WEB SPRINT CUP

60 LMcorsa
● H.YOSHIMOTO ● R.MIYATA**70** LMcorsa
● S.KOHNO ● T.SUGANAMI

11月23日 | 天候：雨 | コース：富士スピードウェイ | 気温:14℃、路面温度15℃
11月24日 | 天候：晴 | コース：富士スピードウェイ | 気温:19℃、路面温度28℃

60 LMcorsa
● H.YOSHIMOTO ● R.MIYATA

Race Summary

初開催となったスプリントカップをポールポジションと2連勝で
SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 が完全制覇

All Days

11月22(金)-24(日)の3日間に亘って、
SUPER GTの500クラスとDTM(ドイツ・ツー
リングカー選手権)の直接対決となる
「AUTOBACS 45th Anniversary presents
SUPER GT×DTM 特別交流戦」が富士スピー
ドウェイで開催された。併催レースとして
GT300クラスのマシンにFIA GT3のマシンを
加えた「auto sport Web Sprint Cup」も実施
され、12台がエントリーした。このレースは
22日に公式練習、23日に公式予選と50分のレー



ス1、そして24日に50分のレース2が行なわれる。公式予選はA、Bドライバーがそれぞれ
10分間のタイムアタックを行ない、二人のタイム合算で予選順位が決まる。またレース2のグリ
ッドは、レース1の表彰式で抽選を行ない、レース1の順位、もしくはトップ6のリバースグリ
ッドかが決定する。

LMcorsaからは、SUPER GTにシリーズ参戦している#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3
に加えて、#70 LMcorsa Ferrari 488 GT3の2台がエントリー。#60はレギュラードライバーの
吉本大樹選手と宮田莉朋選手のコンビで、今回の特別戦を戦った。22日(金)に実施された公式
練習は3回の走行枠が設けられていたが、すべてウエットコンディションとなり2回目と3回目
は雨量も多かったために数周のテスト走行に留まる。1回目の結果は、宮田選手が記録した1分
52秒774がベストタイムで12台中3番手の結果となった。

All Days

23日（土）は予選とレース1が実施され、この日も前日と同様に冷たい霧雨が降ったりやんだりの天候となる。サポートレースの予選が終了した8時40分からAドライバーの予選がスタート。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は吉本選手がアタックし、トップと0秒516差となる1分47秒604で2位につけた。10分間のインターバルを挟んで行なわれたBドライバーの予選は、コース上の水がはけてコンディションが多少改善されるが路面は濡れたまま。この難コンディションにも関わらず、宮田選手は2位に1秒018のギャップを付ける1分45秒029をマーク。A、Bドライバーの合算でトップとなりポールポジションを獲得した。



<レース1>

2万2600人のファンが集まったレース1は、予選終了からわずか2時間半後の11時50分にスタートする。小さな雨粒が落ちては来るもののほぼ曇りで、路面はうっすらと濡れていたため



にほとんどのマシンがレインタイヤでグリッドに並んだ。このレース1は50分のタイムレースで、スタートから20-30分のタイミングでピットインとドライバー交代が義務付けられている。またピットロード入口から出口までは70秒をかけなければならないことになっている。つまりピット作業の速さを争うのではなく、確実な作業を行なうことが必要となる。

ポールポジションからスタートしたSYNTIUM

LMcorsa RC F GT3は吉本選手がステアリングを握る。ローリングスタートから1コーナーで後続のマシンに並び掛けられるがトップを死守。そして2周目にはその差を1.5秒に広げたが、8周目には0.3秒差まで接近される。そして、唯一スリックタイヤを履いた48号車GT-Rに追いつかれ300Rでトップを奪われてしまった。さらにその差は11周目に19.4秒差まで広がった。

トップの5台が11周を通過した時点でスタートから20分が経過し、6位以下は次々にピットインしてタイヤをスリックに交換。吉本選手も12周目にピットインして宮田選手にドライバーチェンジ。タイヤもレインからスリックに交換して2位を守ってコースへ戻った。トップの48号車GT-Rは15周でピットイン、16周目終了時点でトップと宮田選手との差は37秒ほど。ここから宮田選手の追撃が始まる。

ALL Days

18 周目にはその時点でのファステストラップとなる 1 分 39 秒 999 を叩き出してトップとの差を 29.2 秒まで縮めると、その後もファステストラップを更新しながら 21 周目には 18.1 秒差、続けざまタイムを更新し 24 周目には 7.4 秒差に詰める。そして 27 周目には追いつきファイナルラップとなる 28 周目の 1 コーナーでトップを奪回。そのまま歓喜のトップチェッカーを受けた。なお、レース 1 の表彰式で引いた抽選の結果により、レース 2 のグリッドはトップ 6 台がリバースグリッドで並ぶこととなり、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は 6 番手スタートとなった。



<レース 2>

2 万 4100 人のファンが詰めかけた 24 日（日）のレース 2 は、11 時 35 分から前日同様の 50 分間で競われた。

前日までの雨も止みレース開始前には日も射ってきてレースウィークの中ではもっとも暖かい



コンディションとなった。路面は一部で濡れているところもあったが、レコードラインのほとんどは乾いており、全車がスリックタイヤでのスタートとなった。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 のスタートはこの日も吉本選手が担当し、オープニングラップで 2 台をかわして 4 位へ。さらに 2 周目の 1 コーナーで 3 位、ダンロップコーナーで 2 位に順位を上げた。しかしポールポジションスタートの 37 号車コルベットは 1

周目から後続を引き離し、3 周目には吉本選手も 13~14 秒の大差をつけられてしまう。すると後続の 2 台に接近を許すが 1 秒程度の距離を保ち 2 位をキープする走り続けた。

13 周目に入るとレース開始から 20 分を過ぎたため 7 位以降がピットストップを始める。吉本選手は 14 周目にピットインすると、宮田選手に交代。タイヤ交換はせずに 4 位でコースに復帰する。16 周目で 3 位のマシン、17 周でトップと 2 位のマシンがピットストップを済ませると、18 周目には宮田選手がトップの 37 号車コルベットの背後につけた。19 周目のヘアピンコーナーのアウト側からコルベットをパスしてトップを奪う。その後も後続とのギャップを築き、30 周目に 2 位と 15.5 秒差でトップチェッカー。予選ではポールポジション、レース 1、レース 2 ともに優勝と、シーズン最後となる特別戦を完全勝利で締めくくった。

Driver Comment



Driver :吉本 大樹

レース1は『スリックで行こう』と言いかけたのですが、スリックで出ていって雨が降ってしまったら元も子も無いのでレインを選びました。序盤には接触等もありましたが何とかトップを守ることができました。途中でスリックタイヤを選んだ48号車に抜かれてはしまいましたが、僕たちはオートポリスのレースでも見せましたが、コンディションが悪い時には強いので、宮田選手も100%の力で追い上げてくれて最後に逆転してくれました。レース2も少し濡れたコースコンディションで僕らの得意とするところでした。昨日今日と2日間ともにマシンにマッチした状況で走れて2連勝できました。シーズン中も毎戦こうだったらチャンピオンが獲れるのではないかと思います。今年はシーズンでも1勝できましたし、最後に2連勝できて良い締めくくりになりました。宮田選手も最後まで攻め続けてくれて、最高の締めくくりになりました。一年間ありがとうございました。



Driver :宮田 莉朋

レース1はトップの48号車とのギャップはあまり考えずに、ABSやトラクションコントロールが付いているGT3車両の性能を活かして、アウトラップからしっかりプッシュしていきました。首位とのギャップは30秒ぐらいと聞いていたので、最終ラップにギリギリで追いつくかどうかという感じで毎ラップ、予選の感覚でプッシュし続けました。タイヤも別に守る必要もありませんでしたから、最後にトップに出るまでは全開でした。富士はシーズンを通して課題のあるコースでした。オフシーズンに走る機会はなかなかありませんでしたが、レースではプッシュして今後に生きるようなデータを集めることができました。来季につなげられるような走りをしたかったので、両レースともに収穫があったと思います。吉本選手のペースも良かったですし、マザーシャシーやブリヂストンタイヤ装着車にも対抗できましたし、本当に良い内容のレースでした。



Race Summary

若手ドライバーコンビで特別戦に挑んだ、LMcorsa Ferrari 488 GT3 は随所に速さを見せてレース 1 で 5 位、レース 2 で 4 位を獲得

All Days

2 台体勢で「auto sport Web Sprint Cup」に挑んだ LMcorsa は、SUPER GT シリーズに参戦している RC F GT3 に加えて Ferrari 488 GT3 を 70 号車としてエントリー。A ドライバーには全日本 F3 選手権に参戦した河野駿佑選手、B ドライバーには FIA F4 選手権に OTG motorsports から参戦した菅波冬悟選手という若手ドライバー二人を起用した。



22 日（金）に実施された公式練習は 3 回の走行枠が設けられていたが、すべてウェットコンディション。1 回目の走行は菅波選手が 11 周、河野選手が 4 週の計 15 周を走行し、1 分 59 秒 136 のベストタイムで 12 台中 6 位の結果となった。2 回目、3 回目も走行するがコンディションが悪く周回数を伸ばすことができず、Ferrari 488 GT3 での初レースとなる二人にとっては苦戦することが予想された。

23 日（土）は予選とレース 1 が実施され、この日も前日と同様に冷たい霧雨が降ったりやんだりの天候となる。サポートレースの予選が終了した 8 時 40 分から A ドライバーの予選がスタート。Ferrari 488 GT3 のステアリングを握った河野選手は 3 周目に 1 分 50 秒 462 のタイムで 10 番手となる。続く B ドライバーの予選では菅波選手が 1 分 47 秒 974 で、こちらも 10 番手。A、B ドライバーのタイム合算では 3 分 38 秒 436 で、予選は 11 位となった。

<レース 1>

2 万 2600 人のファンが集まったレース 1 は、予選終了からわずか 2 時間半後の 11 時 50 分にスタートする。小さな雨粒が落ちては来るもののほぼ曇りで、路面はうっすらと濡れていたためにほとんどのマシンがレインタイヤでグリッドに並んだ。

All Days

Ferrari 488 GT3 のスタートドライバーは菅波選手が務め、オープニングラップで早くも3台をパスして8番手に浮上する。さらに5周目までに5番手となったが、6周目には唯一スリックタイヤを履いた48号車 GT-R に抜かれて6番手へ。そしてレースが20分を経過した11周でピットインし、河野選手に交代。タイヤもスリックに交換した。



河野選手は6番手でコースに復帰すると15周目には25号車86をかわし5番手へ。4番手の車両とは8.9秒の差があったが、これを周回ごとに縮め18周目には2.6秒差まで追いついたが、追撃もここまで。その後はタイヤのグリップも落ち28周目に5位の順位を守ってチェッカーを受けた。

5位でフィニッシュしたFerrari 488 GT3は、トップから6位までがリバースグリッドとなるレース2を2番手からスタートすることになった、

<レース2>

2万4100人のファンが詰めかけた24日（日）のレース2は、11時35分から前日同様の50分間で競われた。



レース2もFerrari 488 GT3のスタートドライバーは菅波選手が担当。2周目にはSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に順位を譲って3番手となり、4周目には360号車のGT-Rにかわされ、続く6周目にも25号車にパスされてしまう。そして直後にスピンを喫して9番手までドロップ。それでも菅波選手は9周目のダンロップコーナーで48号車のGT-Rを抜いて

8番手へ浮上する。12周が終了した時点でレーススタートから20分が経過したために、ピットレーンに入って河野選手とドライバー交代。

河野選手は9番手でコースに戻ると7秒ほど前を走る30号車プリウスを追っていった。17周までにすべての車両がピットインを済ませると、河野選手は6番手となる。21周目には31号車プリウスに迫り、22周目の最終コーナーでこれをかわして前に出る。さらに4番手の30号車プリウスに追いつき25周目の1コーナーで前に出るが、コカ・コーラコーナーまでに逆転されてしまう。26周目の1コーナーでも再び並びかけるが追い抜くまでにはいたらず、このバトルは終盤まで続いた。そしてフィナルラップとなった30周目の1コーナーで、河野選手は30号車プリウスのインを突いて前に出ると4位でチェッカーを受けた。

Driver Comment



Driver : 河野駿佑

レースウィークが走り始めだったのでレース1のドライ路面とスリックタイヤは初めてでした。ウォームアップが良かったのですぐに25号車をパスでき、その後は4番手まで追いつけたのは良かったです。予選の結果を考えると納得のレースだったと思います。

レース2も後半のスティントを担当して無線では表彰台に登れると伝えられました。2台のプリウスを抜かせて良かったのですが、表彰台まで届かなかったのが残念です。SUPER GTは乗りたいカテゴリーなので、今日の結果が良い方向に繋がればと思っています。



Driver : 菅波冬悟

レース1は予選結果が振るわず11番手からのスタートだったので失うものはありませんでした。周囲のマシンはジェントルマンドライバーが乗っていたので、混戦をどう切り抜けるかが課題でした。それは上手く対応でき、5番手まで上がりましたが、後半はタイヤが厳しく順位を落としてしまいました。

レース2は良いところが全くないレースとなってしまいました。スタート直後はペースが勝っていた先行車に離され、その後は後続のマシンに抜かれる中で焦りがありスピンを喫してしまいました。完全に乾いていない路面にのってしまったのが原因です。スタート順位を考えると表彰台を狙えていただけに、チームや関係者には申し訳ない気持ちでいっぱいです。この悔しさを今後に活かしていきたいです。

